レファレンスコーナー
図書館とウェブで探すカメルーン資料

岸真由美

近年、日本内外でアフリカに対する関心が高まっており、北アフリカや東アフリカへの日本人観光客の数も増えている。しかし、西・中部アフリカについては観光客の数も日本国内で手に入れることのできる情報も極めて少なくなる。中部アフリカにあるサッカー強豪国カメルーン共和国は二〇〇二年W杯の影響もあって、日本でも名前が知られている国だが、もっとよくこの国を知ろうとして資料を探してみると、日本で入手できる資料はかなり少ない。そこで、本コーナーでは、アジア経済研究所図書館が所蔵しているカメルーン関連の資料と、ウェブ上で利用できるデジタル資料を、出版・公開の新しいものを中心に数点紹介する。

カメルーン共和国は赤道に近く、ギニア湾に面したアフリカ大陸の中西部にある国である。北部地域のステップ、サヴァンナから南部地域の熱帯雨林まで多様な気候帯を含むことから「アフリカのミニチュア」とも呼ばれる。人口は約一六〇〇万人、フランス語と英語を公用語とするが、二五〇以上の民族集団が存在し文化的にも言語的にも多様である。宗教別人口で見ると、キリスト教徒五三%、伝統宗教二五%、イスラーム教徒二二%である。島田義仁著『優雅なアフリカ　一夫多妻と超多部族のイスラーム王国を生きる』（明石書店　一九九八年）は、イスラーム教徒が多いカメルーン北部で長年現地調査を行ってきた著者が一般向けに執筆した図書である。具体的な人々の暮らしを著者の経験を交えながら記述しており、負のイメージで捉えられがちなドレイ制や一夫多妻制を別の側面から見る視点を提供してくれる。同著者のより専門的な研究書としては、『牧畜イスラーム国家の人類学　サヴァンナの富と権力と救済』（世界思想社　一九九五年）がある。

カメルーンは豊かな仮面文化で有名でもある。佐々木重洋著『仮面パフォーマンスの人類学　アフリカ豹の森の仮面文化と近代』（世界思想社　二〇〇〇年）は、日本人の私たちの目に「エキゾティック」に映る仮面文化や仮面儀礼が、近代がもたらした異文化要素を摂取しつつ、常にダイナミックに再編されていくことを分析した研究書である。

同国は一九世紀後半のドイツによる植民地化、第一次大戦後のイギリスとフランスによる委任統治を経て、一九六〇年、仏委任統治領である東カメルーンが独立し、翌一九六一年には、英委任統治領西カメルーンの南部がこれに合併した（北部はナイジェリアと合併）。独立直後の一九六〇年代から一九八〇年代半ばまでのカメルーン経済は、商品作物としてカカオ、コーヒー、バナナの農産物を輸出し、さらに一九七〇年代後半から始まった石油採掘により好調な経済を維持していた。しかし、一九八〇年代後半からの国際市場における農産物・原油価格の下落の影響を受けて経済危機を経験した。一九八八年からは、IMFと世界銀行によって構造調整計画が進められているが、経済的な低迷は現在まで続いている。一九九〇年代の構造調整計画下での経済状況については、墓田桂著「構造調整計画以降のカメルーン経済」（『外務省調査月報』二〇〇〇年第二号）が参考になる。この時期の同国のインフォーマル・セクターについては、野元美佐著「経済危機下のアフリカ都市」（『アフリカレポート』二二号、アジア経済研究所　一九九五年）がある。同著者の『アフリカ都市の民族誌　カメルーンの「商人」バミレケのカネと故郷』（明石書店　二〇〇五年）は、首都ヤウンデの人口の四割を占めるバミレケ族の商業活動、都市と故郷の村との関係について、現地調査に基づく詳細な分析を行っている。

さて、現地で出版されている資料を直に手に取ってみたくても、出向いて探すのは日本とカメルーンの間にある距離から言ってなかなか難しい。現在は、同国でも資料のデジタル化、オンライン公開が進められているので、ウェブで手に入る資料をいくつか紹介しておく。まず、国立統計学研究所（http://www.statistics-cameroon.org/）が統計資料のウェブ公開を行っており、統計年鑑 *Annuaire statistique de Cameroun* がPDFでダウンロードできる。また、中部アフリカ諸国中央銀行（http://www.beac.int/）も活動報告書、研究調査ノート、経済統計などをウェブ公開している。アフリカ研究に特化したオンラインの学術論文データベースとしては、African Journals Online（http://www.ajol.info/）がある。登録対象はアフリカの現地出版の学術雑誌。論文タイトル・著者・要約・全文での検索ができる。本文の閲覧は論文単位での購入が必要だが、要約までは無料で閲覧できる。オンラインで読むことができる同国の新聞としては、*Cameroon Tribune*（http://www.cameroon-tribune.cm/）、*Mutations Quotidien*（http://www.quotidienmutations.info/）、*Le Messager*（http://www.lemessager.net）などがある。

（きし　まゆみ／アジア経済研究所図書館）